

《費用対効果分析説明資料》

事業名	仏ヶ浦港改修(地方)	地区名等	長後地区
-----	------------	------	------

【費用対効果の算定内容】

『港湾投資の評価に関する解説書2004』に基づき算定した。

プロジェクト名： 小型旅客船ターミナル整備プロジェクト

1. 事業全体の投資効率性

1-1 総費用

(1) 建設費

- ・建設費用は、防波堤、物揚場、泊地、道路(歩道)にかかる一連施設群の費用とし、消費税を控除した。
- ・建設費用の計算期間は、最初の施設に着手したH.3年～事業完了予定のH.35年までとした。

(2) 管理運営費

- ・管理運営費については、全体事業費の0.5%とし、消費税を控除した。
- ・管理運営費の計算期間は、一部供用開始年のH.9年から～供用期間50年後のH.59年までとした。

1-2 需要の推計

- ・需要は、観光船利用客数とする。
- ・H.19年までは実績値を用いる。
- ・H.20年～事業完了H.35年までは、S.59年～H.19までの実績値の7年移動平均値に基づくトレンド推計により64千人/年～76千人/年と推移する。
- ・事業完了翌年H.36年～供用期間のH.59年までは、H.35年推計値の76千人/年と同数で推移する。

1-3 便益の算定

(1) 交流・レクリエーション機会の増加便益

- ・海からの上陸機会が増加する効果を、CVMアンケートにより計測した。
- ・その結果より、観光船利用者一人あたりの支払意志額は2,105円/回と算定した。

(2) 移動コスト削減便益

- ・仏ヶ浦港整備後の観光船を利用することによって、代替ルートに比べて、移動コストが削減できる。
- ・代替ルートは、旧棧橋利用海上ルートと陸上ルート(バスと徒歩)との組み合わせとする。

(3) 便益の計算期間

- ・便益計算期間は、供用開始翌年のH.10年～供用期間50年後のH.59年までとした。

1-4 費用対効果分析の結果

	単純合計	現在価値化後
基準年		平成21年
社会的割引率		4%
総費用(消費税除く)	2,250百万円	2,679百万円
便益(交流+移動)	7,725百万円	5,075百万円

$$B/C = 5,075百万円 / 2,679百万円 = 1.89$$

2. 残事業の投資効率性

再評価時点(H.21)まで発生したコストや便益を考慮せず、残事業の費用対効果分析を行なった結果は次のとおりである。

	単純合計	現在価値化後
基準年		平成21年
社会的割引率		4%
総費用(消費税除く)	935百万円	802百万円
便益(交流+移動)	3,976百万円	1,459百万円

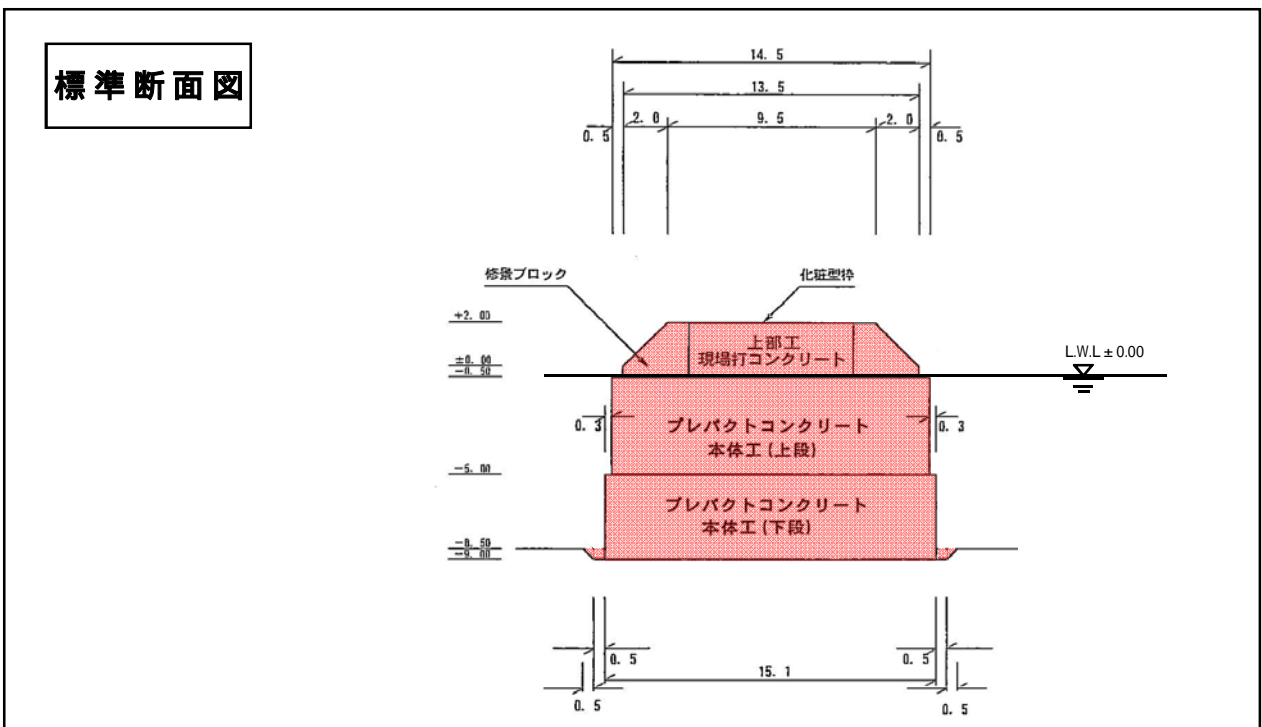
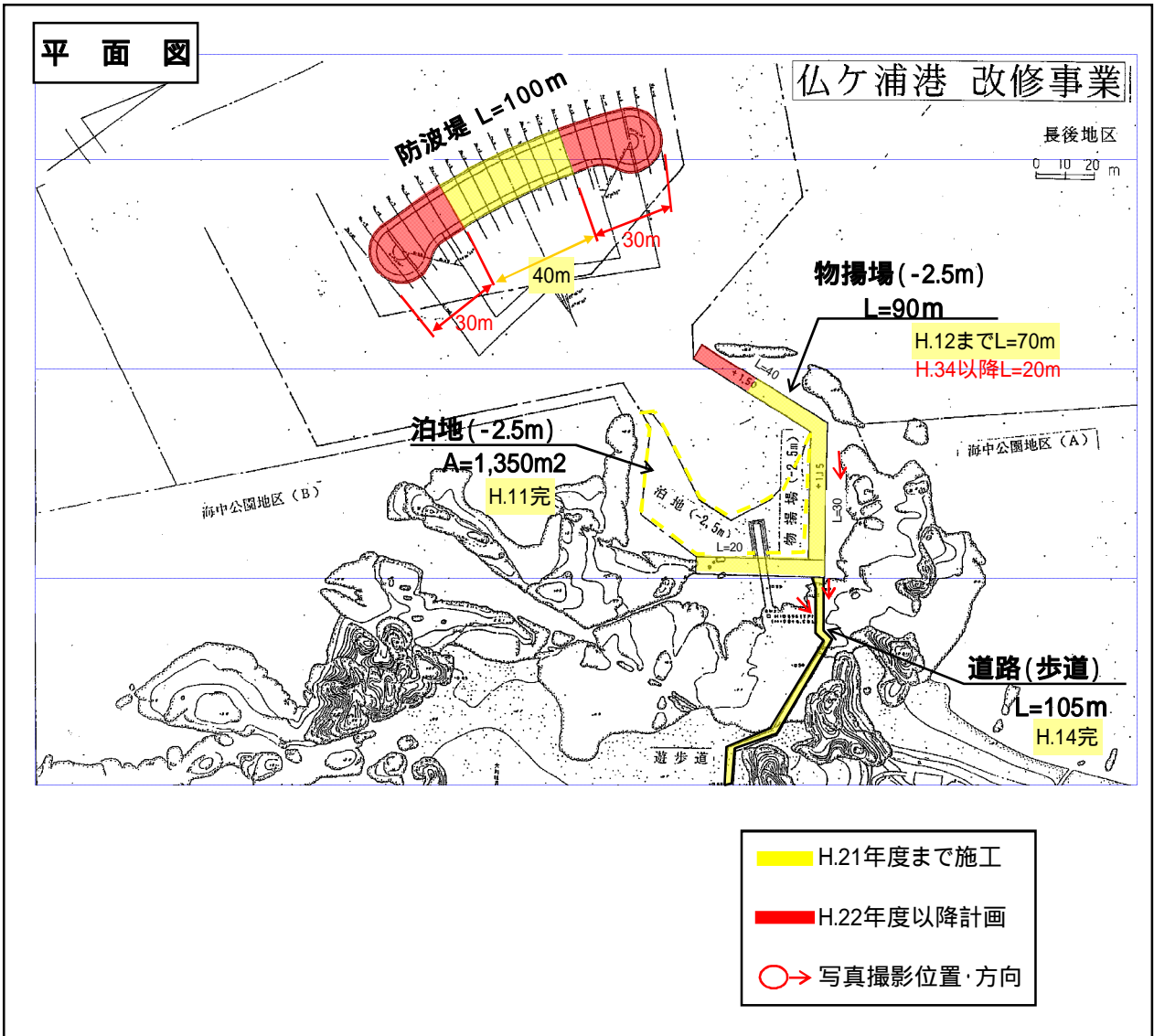
$$B/C = 1,459百万円 / 802百万円 = 1.82$$

位置図



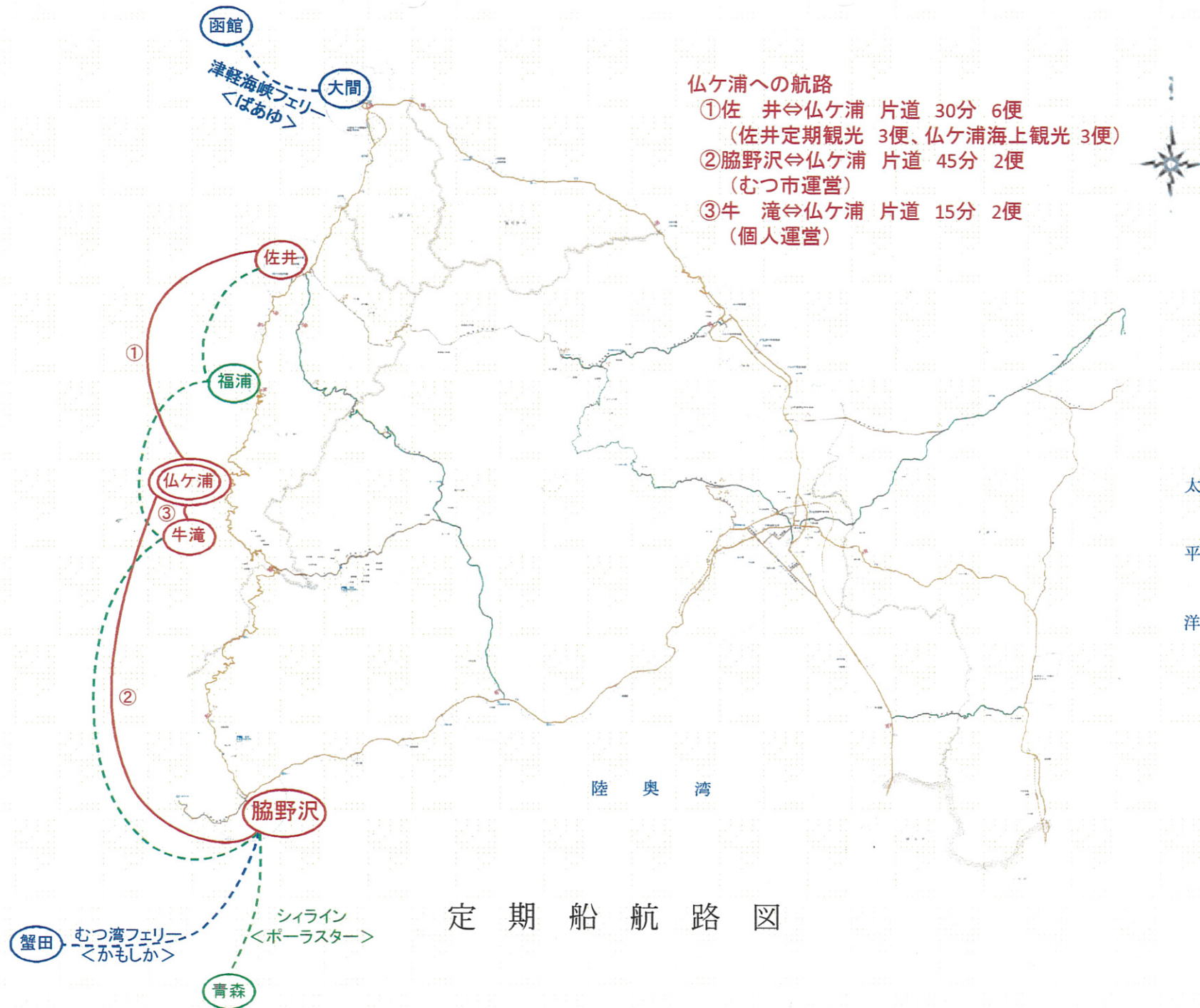
全景航空写真





仏ヶ浦港利用状況写真





仏ヶ浦への航路

- ① 佐井⇔仏ヶ浦 片道 30分 6便
(佐井定期観光 3便、仏ヶ浦海上観光 3便)
- ② 脇野沢⇔仏ヶ浦 片道 45分 2便
(むつ市運堂)
- ③ 牛滝⇔仏ヶ浦 片道 15分 2便
(個人運営)

定期船航路図